



神小だより

阿賀野市立神山小学校

学校だより 4月号

保護者・地域版

H29年4月12日

ホームページアドレス <http://kamiyama-es.agano.ed.jp/>



「子どもたち、保護者、地域の皆様が元気になる学校」を目指して

校長 鈴木 正彦

笑顔あふれる新1年生16名を迎え、全校児童100名、教職員17名で神山小学校の平成29年度がスタートいたしました。

心身共に一段とたくましく成長し、新しい学年に進級した子どもたち。一人一人の笑顔あふれる表情からは、進級した喜びと「自分の目標を目指して頑張ろう」という意気込みが感じられました。

また、4月7日には、新1年生16名を迎えての入学式が行われました。新1年生のみなさん、ご入学、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。たくさんのお兄さんお姉さん、先生、地域の方々に囲まれ、とても緊張したことでしょう。しかし、名前を呼ばれて元気に返事をする姿や姿勢よくお話を聞く姿に、感心しました。立派な神山小学校の一員としての、たくましさを強く感じました。

さて、平成29年度の教育活動のスタートに当たり、昨年度に引き続き「子どもや保護者、地域の皆様が元気になる学校」、保護者・地域の皆様の元気の源である「子どもたちの笑顔の花が咲く学校」を学校経営方針の中核に据え、充実した教育活動を展開します。

神山小学校の教育目標は3つです。

- ・「よく考え 力いっぱい励む子ども」(知育)
- ・「明るく 思いやりのある子ども」(徳育)
- ・「進んで 自分をきたえる子ども」(体育)です。

自分のもてる力を最大限に発揮し、思いやりの心をもって、学習や運動(健康な体づくり)に、進んで取り組もうとする子どもたちを育てていきます。

そのために神山小学校では、年間を通して最も基本的な2つのルールを、特に守るよう心がけています。1つ目は、「相手が話しているときは、口を閉じて最後まで静かに聴(き)く」ということです。「聴(き)く」という文字は、「耳+目と心」と書きます。つまり、耳だけでなく、目と心も相手に集中して気持ちを込めて話を聴(き)くということです。普段、私たちがよく使っている「聞(き)く」よりも、より気持ちを込めて「聴(き)く」ということです。相手の話をしっかり聴(き)くことは、相手を大切にすることにつながります。先生やお友達の話をしっかり聴(き)いて初めて、学校の様子や学習内容がよく分かり、また、自分の意見ももてるようになります。

2つ目は、「相手が嫌がることや悲しい気持ちになることは、言わない、しない。」「気持ちが温くなる言葉『ありがとう』を進んで使いましょう。」ということ。私たちは、多くの人々と協力し助け合って生きていかなければなりません。そのためには、相手の気持ちを傷つけないように生活していくことが大切です。そして、たくさんの人に支えられていることに対し、『ありがとう』という気持ちを忘れないで学校生活を過ごして欲しいと思います。

ところで、お子さんの成長には、お子さんの最もよい理解者であり支援者である保護者・地域の皆様のお力が、必要不可欠です。ぜひ、お互い手に手を取り合って、神山小学校の子どもたちを育てていきたいと思ひます。

平成29年度も、「Team 神山 すべての職員で、神山小学校の子どもを育てる、元気になる！」という強い思いで、全職員一丸となって、神山小学校の子どもたち、保護者、地域の皆様の笑顔のために頑張っまいます。神山小学校の教育に対しまして、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

